

出来事ファイル (No.20-11)

■観光遊覧船「boh boh KOBE」お目見え

早駒運輸(株)は、今年6月に引退した「ファンタジー号」に代わり「ボーボーKOBÉ」を就航させた。全長38m、幅10.66m、船内ではスイーツや飲み物を提供、2階船首部には港の風景が一望できるスペースを用意、3階オープンデッキではバジルなどのハーブを育て、音やにおいなどの演出でリゾート感を満喫させる趣向。問合せ先 ☎0120・370764まで。水曜運休。



(神戸新聞より)

■神戸駅東地区クリーン作戦

神戸駅東クリーンチームは10月7日(水)12時からハーバー懇談会地域のクリーン作戦を実施した。エスタシオン・デ・神戸から16名、ネットヨタ兵庫(株)17名、(株)ベルコ2名、元町通7丁目2名が参加、用具持参で道路清掃を行った。



ネットヨタ兵庫(株)・元町通7丁目のみなさん



エスタシオン・デ・神戸とベルコのみなさん

■3か国語で自転車乗入禁止

元町商店街では、商店街内を自転車で走行することを禁じているが、なかには自転車で走る人の姿もあることから、このほど新しい自転車による通行禁止の横断幕を作成、配置した。自転車乗入れ禁止であることを日本語、中国語、英語、韓国語の4か国語で表示、生田警察署・神戸元町商店街名で作成した。自転車通行禁止マークの旗をもつとずきんちゃんも登場させている。



□読者プレゼント

企画展「発掘された明石の歴史展 ～明石の港津～」

畿内と西国との境界に位置する明石は、行き交う船が、潮待ちや夜の航行を避けて停泊する重要な港であり、地元で生産された品々を、都や各地へ運ぶ船運の拠点でもありました。本展では、二見・魚住・林・明石・大蔵などの港や、その周辺の遺跡から出土した遺物を通し、明石の歴史を読み解きます。展覧会鑑賞ご希望の方は、はがきに住所・氏名・年齢・本紙へのひと言を添えて編集部まで。先着5名の方に、ペア招待券をお送りします。

会場：明石市立文化博物館
Tel.078-918-5400

期間：10月31日(土)～12月6日(日)



奈良時代のイダコ壺や製塩土器など (赤根川遺跡)

自転車駐輪場附置義務免除地域 拡大へ

10月8日、中央区長、生田警察署、中部建設事務所と弊協議会など地元のまちづくり団体が区役所に集まり、自転車等放置禁止区域検討委員会が開かれた。

商業・業務などの都市機能に特化した土地利用を誘導すべき地域である「都心機能高度集積地区」で、自転車駐輪場の附置義務を免除するというもの。

企業誘致やビル建て替えの気運を高め、都市機能の集積を促進、三宮駅周辺を神戸の玄関口にふさわしい高質な空間とすることを目指すため、「特別用途地区(都心機能誘導地区)のうち、「都心機能高度集積地区」内の建築(新築・増築(増築部分のみ))について、自転車駐輪場の附置義務を免除する。

元町地域では、鯉川筋とタワーロード間、南北に中央幹線から国道2号線までの地域が対象となる。



指定範囲(案)詳細 元町に広がる道路

凡例
□ 現在の放置禁止区域
■ 放置禁止区域拡大(案)

編集後記

日本人の母の父の間に生まれたプロテニス選手が、全米オープンで2度目の優勝を果たした。コートへ向かう大勢の観客の口元には、いっつも黒いマスクがある。そこには、白人警官の暴行で犠牲になった黒人たちの名前が記されていた。決勝戦では、警察官の発砲で死亡した12歳のタミル・ライス君の名前だった。第一セットは簡単に奪われた。第二セットは先にブレークされたが2・3セットを連取して優勝した。インタビュでマスクのことは聞かれた大坂選手は、世界に強打を打ち返している。「あなたはどんなメッシージを受け取りましたか？」。

(呼びかけた元町商店街のテニス愛好メンバーと、六甲アイランドのコーバートでゲームを楽しんだ頃を思い出しながら)

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 11月

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) Tel.361-4523

11月 5日(木)～11月10日(火)
第23回きんもくせいの会絵画展
11月13日(金)～11月17日(火)
第13回みなと銀行こうゆう会福友会部会 会員作品展
11月19日(木)～11月24日(火)第29回章の会展

◇元町映画館(有料) Tel.366-2636

10月31日(土)～11月 6日(金)
『zk 頭脳警察50 未来への鼓動』
10月31日(土)～11月13日(金)
『マルモイ こばあつめ』
11月 7日(土)～11月20日(金)
『れいわ一揆』・『もったいないキッチン』(※11/14休映)
『ようこそ映画音響の世界へ』
11月14日(土)『ジャムの月世界活弁旅行』
11月14日(土)～11月27日(金)『タイトル、拒絶』

みなと元町

タウンニュース

No.
339

Town News



発行：みなと元町タウン協議会 住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人：奈良山喬一 編集人：岩田照彦 電話・FAX：078-391-0831

変化するまち・中央区

中央区長 清家 久樹



みなと元町タウン協議会の皆様におかれましては、元町地域の魅力向上にむけて、長きにわたり「自転車乗入れ禁止キャンペーン」や「クリーン作戦」など様々な活動に取り組んでこられましたことに心から敬意を表します。また、平素から本市行政に多大なるご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、多くの行事や地域活動が中止・延期を余儀なくされる中で、外出や活動の自粛、「3つの密」の回避など、感染拡大防止に向けた皆様のご協力に重ねて御礼申し上げます。

今後も再度の感染拡大に備えて、消毒、マスク、人との距離をとる、といった新しい生活様式の定着を図りながら、市民生活・経済活動をできる限り回復させていく必要があると考えておりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

これまで中央区では、区民の皆さんとともにめざす将来像である「わたしの都心(まち)中央区 くらす魅力、つどう魅力、多彩な個性が響きあう都心(まち)」の実現に向けて、様々な取り組みを進めてきました。

まず、「安全・安心なまちづくり」として、災害時に家に帰れない「帰宅困難者」が一時的に滞在できる施設の確保や、一人で避難できない方を支援するための体制の整備を進めています。他にも、犯罪を未然に防ぐための「地域

防犯マップ」の作成や、よりよい生活環境の実現に向けた繁華街の美化・環境改善活動などに地域の方と協力して取り組んでいるところです。

また、中央区には『区内人口の約1割が外国人』という特徴があり、外国人居住者と地域が交流する「多文化交流フェスティバル」、「多文化交流カフェ」の開催支援や、日本語学校の留学生に対する防災・ごみ出しルールについての学習会を実施するなど、外国人を含めた“誰もが暮らしやすいまち”を目指した取り組みを進めています。

さらに、中央区のもう1つの大きな特徴として『区内の住宅の約9割が集合住宅』という点があります。昨今、区内の各所でマンションの建設が進んでおりますが、このような集合住宅における住民同士のコミュニティ形成、そしてマンション外との交流促進に向けて、中央区独自の「防災・コミュニティ助成」制度の拡充や防災アドバイザーの派遣などを実施しています。

一方で、区内の各所には神戸らしいまちなみや自然、多様な歴史や文化が息づいており、恒例行事となった春の「インフィオラータこうべ」や「ふれあい中央カーニバル」、夏の「こうべ海の盆踊り」、秋の「秋華祭」など、季節に応じた住民参加型の各種イベントが開催されています。(今年度は新型コロナの影響により大半が中止)これらのイベントを含めて、SNSやホームページによる広報等を積極的に活用しながら、区民の皆様がまちへの愛着を深めていただく取り組みを進めていきたいと考えています。

さて、まちの変化に目を向けますと、今まさに都心三宮の再整備が動き始め、まちの姿も大きく変わりつつあります。神戸の玄関口である三宮駅周辺の日常的なにぎわいを生み出すため、

「三宮クロススクエア」として段階的な整備が進んでおり、2025年頃に第一段階の完成を目指しています。他にも、西日本最大級の新たなバスターミナルや図書館の整備などの様々なプロジェクトが展開されており、現在の中央区庁舎についても、2022年に旧市役所3号館跡地への移転が予定されています。また、元町地域での「自転車等放置禁止区域」の拡大と駐輪場の整備も行っています。加えて、本年12月には、旧生田川(現在のフラワーロード)を境に分かれていた生田区と葺合区が合区し、現在の中央区が誕生してから40周年の節目を迎えます。今後も活気あふれる中央区を目指して、これまでの歴史を振り返りながら、様々な事業を企画・展開していきたいと考えています。

最後になりますが、今後もみなと元町タウン協議会の皆様とともに、元町地域の魅力をより一層高めていけるよう取り組みを進めてまいりますので、引き続き、本市行政にお力添え賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のより一層のご活躍とご発展をお祈りいたします。



40周年かもめん

海という名の本屋が消えた (84)

平野義昌

諏訪山界限(2)

〈諏訪山公園の登り口を少し過ると、再度山へ参る石の道標が立っている。そこに朽ちた水門があり、蓴菜(じゅんさい)の多い古池が広々とひろがって諏訪神社の鳥居を映していた。その池畔に二階建の蕎麦屋があった。〉^{註1}

今東光が自伝小説で大正初めの諏訪山付近を描いている。15歳の東光少年は蕎麦屋で開かれるアマチュア短歌会に参加したが、活気がなく落胆する。〈……私は次第に索漠とした気分になり、諏訪山の古池ばかり眺めていた。子供の時分には人取り藻が多くて泳ぐと死ぬと噂され、誰も怖がった池であったが、私は平気で泳いでいるうちに足に藻が絡んで、ほんとうに溺死しかけたことを思い出したりした。春浅い頃には大きな蛙が何万匹も交(つる)んでいたし、時には菱取りが盃に乗って泛(うか)んでいたし、懐しい池だったが近く武徳殿が建つのだという噂だった。(後略)〉^{註1}

諏訪神社は、仁徳天皇の時代(4世紀末頃)に信州諏訪大社より奉斎、と言われている。御祭神は諏訪明神、「健御名方大神(たけみなかたのおおかみ、大国主命の子)」と「比売神(ひめかみ)」、旧中宮村の氏神様である。隣は諏訪山稲荷神社。1778(安永7)年、伏見稲荷大社から「宇迦之御魂大神(うかのみたまのおおかみ、須佐之男之命の子)」を勧請した。境内に掲げられた「由緒記」は、商売繁盛・延命息災の守護神として市民の信仰が厚いことに加え、神戸華僑の崇敬と参拝を特記している。社の前に中国式参拝の金亭(紙銭を焼く炉、死者にお金を贈る)と跪拝台(跪いて拝む)が設置され、ろうそくと線香も中国式の赤色である。華僑守護と日中友好祈願の額が奉納されている。

諏訪神社が華僑の信仰を集めている理由は諸説あり、明確ではない。神戸開港当初に長崎から来た華僑が長崎諏訪神社を崇拝していた、中国の神の名前(これも諸説あり)と「すわ」の発音が似ている、お稲荷さんが商売の神様であること、などが考えられる。^{註2}

神社から港が一望できることも理由の一つだろう。海は故郷に繋がる。

陳舜臣も信仰の理由について「いまではもうわからなくなっている」と言う。熱心に参拝する華僑のお婆さんに訊ねても「いい神様だからさ」と答えるだけ。考えられるのは「コロニアルスタイル」。植民者が本国と同じ生活は無理、「やむをえず現地と同類のものと妥協する」。諏訪神社は信仰面の「コロニアルスタイル」と説明する。^{註3}

諏訪山はどのように公園になったか。73(明治6)年、政府が公園設置に関する通達を出した。古くから公衆の遊覧場所となっている名所旧跡を官有地にし、公園として開放、公共の財産とする。西洋の公園を手本にした。歴史ある寺社・観光地が候補地になった。東京府は上野寛永寺や浅草寺など、大阪府は四天王寺、住吉神社など、京都府は八坂神社や清水寺などである。兵庫県は諏訪神社、生田神社、和田神社の境内を申し出たが、うやむやになった。諏訪神社は市民に眺望の良い名所と知られたが、整備まで時間がかかった。81(明治14)年、神戸区長が遊園地として開発するため払い下げを要請した。1903(明治36)年、大阪の内国勧業博覧会の協賛事業で展望台を整備

し、神戸区営諏訪山遊園が誕生した。08(明治41)年「金星台」の広場ができ、09(明治42)年に麓の池を埋め立て武道場「武徳殿」が完成。28(昭和3)年、諏訪山動物園が開園する。^{註4・補註1}

広場「金星台」の名称は、1874(明治7)年12月9日に金星観測が行われたことによる。フランスの観測隊が金星の太陽面通過を観測した。地球から太陽までの距離をより正確に求めるための観測だ。当時105年ぶりの現象だった。観測可能場所は日本を含む東半球。世界各地に西洋先進国が観測隊を派遣した。科学力による国際競争だ。日本での観測は、横浜メキシコ隊、神戸フランス隊、長崎アメリカとフランス隊だった。

〈……日本政府は彼らを厚くもてなし、国内の自由往来や観測機器類の無税通関を認めるなど、最大限の便宜を図った。開国してまもない日本にとって、最先端の科学技術を学ぶ絶好のチャンスでもあったからだ。〉^{註5}

10月3日、横浜にフランス隊(太陽物理学者・ジャンサン他全12名、留学生・清水誠(補註2)も参加)が到着。冬季は横浜より神戸の気象条件が良いことから、16日来航。港近辺で場所を探し、諏訪山に観測所を設けた。さらに、長崎がより晴天が多く太陽高度が高いとわかり、移動した。その長崎の天候がすぐれず、11月30日神戸にドラクロア中尉と清水が戻る。12月5日、諏訪山観測所と居留地の電信局が電信線で結ばれ、長崎観測所とも繋がった。両地点の観測時刻を正確に合わせることできた。

〈……神戸での観測は(第4接触がやや不確かだったものの)、金星が太陽のへりにかかる第1接触から、へりから出たばかりの第4接触までのすべての接触の観測と、合計15枚の写真の撮影に成功した。〉^{註5}

当日やはり長崎の天候は悪かった。翌年1月ジャンサンも神戸に再来航し、観測地点の経緯度を測量した。公園内に「金星観測記念碑」が建っている。正面に金星の太陽面通過経路の図、背面に「長官星学士 ジ・ジャンサン/仏国派出人員 附属測検 ドラクルワ/同 清水誠/金星日測検之処/明治七年二月九日 兵庫県令 神田孝平在任(後略)」と刻まれている。ジャンサンが計測した経緯度は空欄である。^{註5}「金星観測記念碑」の奥、小高い場所に「海軍営之碑」が建つ。1863(文久3)年、第14代将軍・徳川家茂が勝海舟と大阪湾視察のおり生田川河口に上陸した。勝が海軍操練所設置の許可を得た、その記念の「碑」である。操練所は二茶屋村(ふたつちや)の網谷吉兵衛が私財を投じた船たて場(船の修理施設)を利用した。64(元治元)年、勝は軍艦奉行に昇進するが、操練所塾生が倒幕運動に参加したため、半年で罷免される。同年完成した「碑」は神戸村庄屋・生島四郎太夫が保管した。1915(大正4)年、生島家が神戸区に寄贈し、諏訪山に設置された。

陳舜臣は神戸を見るのに時間の余裕がない場合は「金星台」を勧める。〈金星台からの眺めは、けっして雄大ではない。あまりに

も町に近く、薨が一枚一枚みえる。町の息吹きと人びとの生活のにおいが、とどいてくるのだ。(中略)町ぜんたいが、海にむかっている。これは町の雰囲気をも、いかにもあかるく、そして開放的なものになっている。〉^{註3}

詩人・竹中郁は、海の広がりと東西に細長い町から平清盛の福原京計画に思いを馳せる。〈西に広がる平野とか夢野とかは、あの清盛が一度は都を造ろうとして計画をすすめた故地だ。(中略)この西の空に、暮れなずむ夕ぐれ、光度のつよい金星がかかったなら、清盛が肚中に描いた福原京は一段と品位を増したことだろう。〉^{註6}

旅人の目ではどうか。〈……何と言っても神戸は諏訪山が好いね。あそこから見ると、いかにも神戸の好い港であるということがわかるね。(後略)〉^{註7}

前回陳舜臣の文章から孫文と神戸の関係を紹介した。孫文は革命家として港湾整備を中心に祖国の未来図を描き、それを神戸に重ね合わせていた。〈彼のまぶたのうらには、列強に抑えられている税関を収復し、租界を撤廃し、あかるい日ざしを浴びて栄える、未来の中国の諸港湾のすがたが、うかんでいた。〉^{註3}

権力者、革命家、旅人、そして華僑や多くの市民が諏訪山から海港を臨み、夢と希望をふくらませた。2020年夏現在、かつての風景は様変わりしている。高層のビルに遮られて、港を一望することは叶わない。ビルの隙間からところどころ見えるだけである。

^{註1} 今東光『悪童』角川文庫、1958年
^{註2} 西村在子「神戸佳境と諏訪山稲荷信仰～諏訪山を訪れる人々～」『神戸と外国文化第四集』京都精華大学文学部、1997年)
^{註3} 陳舜臣『神戸ものがたり』平凡社ライブラリー、1998年
^{註4} (参考文献)辰巳信哉『神戸からの公園文化 兵庫の公園1868～2000』プレーンセンター、2000年
^{註5} 田井玲子『外国人居留地と神戸』神戸新聞総合出版センター、2013年
^{註6} 竹中郁『私のびっくり箱』神戸新聞出版センター、1985年
^{註7} 田山花袋『京阪一日の行楽』博文館、1923年
^{補註1} 神戸最初の公園は生田川西側堤防に設けられたレクリエーション・グラウンド(現在の東遊園地)とされる。1868(慶応4)年、兵庫県はアメリカ人の申請により県有地を貸与したが、他の国から異議あり。75(明治8)年、外務大輔寺島宗則と9カ国の公使間で公園約定書が調印され、土地は無償貸与、施設建設と維持費は居留外国人負担となった。名称は「パブリック・ガーデン・フォー・ジャパニーズ・アンド・フォーリナーズ」(内外人公園地)。実際の利用者は外国人。彼らの競技を見物するために多くの市民が集まった。前掲^{註5}
^{補註2} 清水誠(1845～1899年)は加賀藩士の生まれ。横浜でフランス人に器械学・造船学を学び、70(明治3)年パリ留学。74(明治7)年帰国するところ、フランス政府から金星観測隊に招かれた。75(明治8)年、横須賀造船所に勤務しながらマッチを試作。76(明治9)年「新燧社(しんすいしゃ)」を設立して国産マッチ創始者。87(明治10)年清水の協力で神戸監獄で製造開始。続々とマッチ会社ができ、神戸は国内最大の生産地になる。前掲^{註5}



乙仲通 界限の魅力と可能性

乙仲さんぽ活動報告 ④

乙仲立て看板ストリート

・店舗へのアクセス・設え・

今号では、乙仲通の立て看板に着目して店舗へのアクセスや設えについて調査した活動について報告したいと思います。

本調査は初年度(2015年度)におこなわれた乙仲さんぽにて、乙仲通界限の特徴でもある街路にあふれだした店舗の立て看板に興味を惹かれた学生が中心となり、グループ調査として実施しました。

初回のグループワークではまず、立て看板に共通するデザインや、立て看板があふれだす要因ともなっている店舗のわかりにくさの問題などについて議論を重ねました。結果、立て看板を調査することでどちらの問題にも言及することができるのではないかと、との結論に至りました。次のグループワークでは、立て看板を調査するにあたり、具体的な調査方法として、乙仲通界限の立て看板をできうる限り写真収集し、地図上で位置を示すことによって、建物と立て看板の関係を明らかにすることができなしか検討しました。調査は2016年1月に実施しました。

その結果、街路におかれている立て看板は約100個確認することができ、立て看板は店舗との配置関係から大きく三つに分類することができました。まず、道路から直接お店に入れる位置におかれた「路面型」の看板ですが、こ

商業空間のあふれだし

乙仲通界限の特徴は、上述された「乙仲立て看板ストリート」の調査からもわかるように、店舗の立て看板などの広告物や商品、装飾などが、街路や建物廊下などにあふれだしていることや、そういった状況を生む要因にもなっている古いオフィスビルの集積にあります。ここでは、店舗から外部へあふれだした物品を商業空間の「あふれだし」と捉え、その文化的価値について考えてみたいと思います。

乙仲通界限のような商業空間において、あふれだしが頻繁にみられるのは、店舗のわかりにくさが一因なのは理解できるでしょう。乙仲に立地する古いオフィスビルは、元々、オフィス用途であり商業用途ではありません。そのため、建物の外観から地下階や二階以上の店舗の存在はわかりにくくなっています。そうした店舗であふれだしがおこなわれるのは自然なことと言えますが、立地の悪さを補う単なる宣伝行為ではない個性もうかがえます。店主にとっ

れは乙仲通沿いに多く見られました。お店のある建物内に誘導する「建物誘導型」の看板も同様です。次に、お店のある建物へ離れた位置から誘導する「遠隔誘導型」の看板ですが、これは乙仲通に直交する南北の通り沿いに多く設置されていました。この型は他の店舗の前に置かれるようなことはなく、駐車場や工事中の敷地前、高層マンションの脇などに集中して置かれていました。

これらの分析結果から、店舗へ誘導する立て看板は建物から離れ周囲に広がっていることがわかりました。こうした状況は街路の特徴となっている一方で、いくつか課題も見られました。例えば、街路にあふれだした立て看板が歩行者の妨げになっていること、建物内部の階段や廊下も同様です。乙仲通界限の立て看



立て看板一覧(冊子『乙仲さんぽ2015』から抜粋再編)

て、街路や建物廊下は表現の場にもなっているのではないのでしょうか。

乙仲通界限のあふれだしには、店舗の雰囲気が伝わってくる魅力的なデザインや手作り感があり、個性が感じられます。一方で、そのあふれだしにも課題はあります。本来の都市計画上の規定から外れた場所で、計画外に商業空間が成立しているがゆえに、店主があふれだしの魅力を公然と言いづらい状況がありそうです。立て看板のあふれだしに関しては、摘発が少なからずあり、歩道を圧迫する立て看板は公共のルール上、一定の規制が必要かもしれません。

しかし、乙仲通界限のように港湾機能の縮小が単なるオフィスビルの空室増加や景気低迷に終わらずに、新たな用途が店主によって発見され商業空間に変遷している状況は、既存の都市計画には顧みられなかった評価の可能性を示しているのではないのでしょうか。店主が能動的に商業空間となり得る場所を発見した結果としてあふれだしが生まれ、店主の個

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部 兵庫地域会
乙仲通界限デザインワークショップ実行委員会

板は、魅力的に感じられる一方で歩行者の安全性についての課題もあります。

立て看板のデザインですが、収集した結果からいくつか特徴を見出すことができました。実は個性的にみえるデザインの立て看板にも共通点があったこと。例えば、看板の大きさが揃っていること、ネオンなどの派手な装飾がないこと、A型看板が多いこと、手作り感があることです。これらは乙仲通界限から自然発生的に生まれたデザインの方向性として評価することができるかもしれません。

上記の通り、立て看板は乙仲通界限の魅力であると同時に、課題も含んでいることがわかりました。それが街路の景観にも影響を与え、界限に個性を与えていることは特筆すべき点と言えるでしょう。

性が界限に現れた。そうだとすれば、それらの試みは計画と計画外の空間利用を創造性によって補完する文化的な行為と言えます。

古い建物の利用は維持管理費と店舗の利潤の均衡によって成立する現象です。利潤が比較的少なくても経営していけるのが古い建物の利点であり、利潤よりも維持管理費が増大するのであれば、その建物は役目を終えたと言えます。重要なのは都市においてそういった建物がいくつか存在し、それらが古い建物のまま集積することです。乙仲通界限の店舗は、利益追求だけで出店していないように見えます。つまり、乙仲通界限のような商業空間のあふれだしは、宣伝行為だけを意味せず、都市の多様性が保たれていることを暗示する文化的な記号と言えるのではないのでしょうか。

鈴木 亮太 (すずきりょうた)

関東学院大学 人間共生学部助手／
横浜市立大学大学院 都市社会文化
研究科 博士後期課程 専攻分野 建
築・都市デザイン

Copyright © 2020. All Rights Reserved.